スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山梨県 昭和町

自 治 体 名 ： 山梨県中巨摩郡昭和町
担 当 課 名 ： 昭和町教育委員会　生涯学習課
電 話 番 号 ： 055-275-8641

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	9.15 ㎢
人口	21,387 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	613 人
部活動数	１６ 部活 （運動部のみ計上）
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	あり
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

甲府盆地の中心部に位置し、面積約9㎢で平坦な地勢を有している。人口構成は、４０代前半から２０代後半とその子ども世代の年齢層が多く、人口も増加傾向である。生徒数についても同様に増加傾向が続いており、この傾向は令和２７年頃まで続くと想定している。

１部活動あたりの部員数が多く、指導者への負荷が高くなっている部分がある。
教育委員会については、学校教育課及び生涯学習課の２課構成（職員数１１名）である。
一部の部活動では、単独部での大会出場が困難であり、年度によっては近隣中学校を中心に合同部での活動となっている。

（一社）昭和総合型地域スポーツクラブ・キャメリアの有資格者マネジャーが子どもから高齢者まで多世代がスポーツ活動及び文化活動を生涯にわたって楽しむことができるメニューを提供し、学校体育授業を支援し、学校施設を用いた放課後時間活用プログラムなどの実施を行う中で子どもたちの人間性や社会性を育む環境をつくり、シニア世代においては、介護予防運動などを実施、元気な高齢化社会の実現など、地域振興や持続的なコミュニティの構築を目的とし、活動している。この地域や学校に根づいた活動を評価し、当町地域展開の実施主体としてふさわしいと考えている。

令和４年度に昭和町部活動地域移行あり方検討会を設置。
運営主体を昭和町教育委員会、実施主体を昭和総合型地域スポーツクラブキャメリアとして承認。
町部活動地域移行コーディネーターとして、同クラブマネジャーを任命することの方向性の確認。

実施主体の体制強化、外部指導者へ地域展開に対する理念の共有を図りながらの量的確保及び質的確保が課題。これらすべてを体現するためにも地域への取組の周知や支援体制の構築へ向けて活動を迅速にまた、具体的に進めるかが課題。

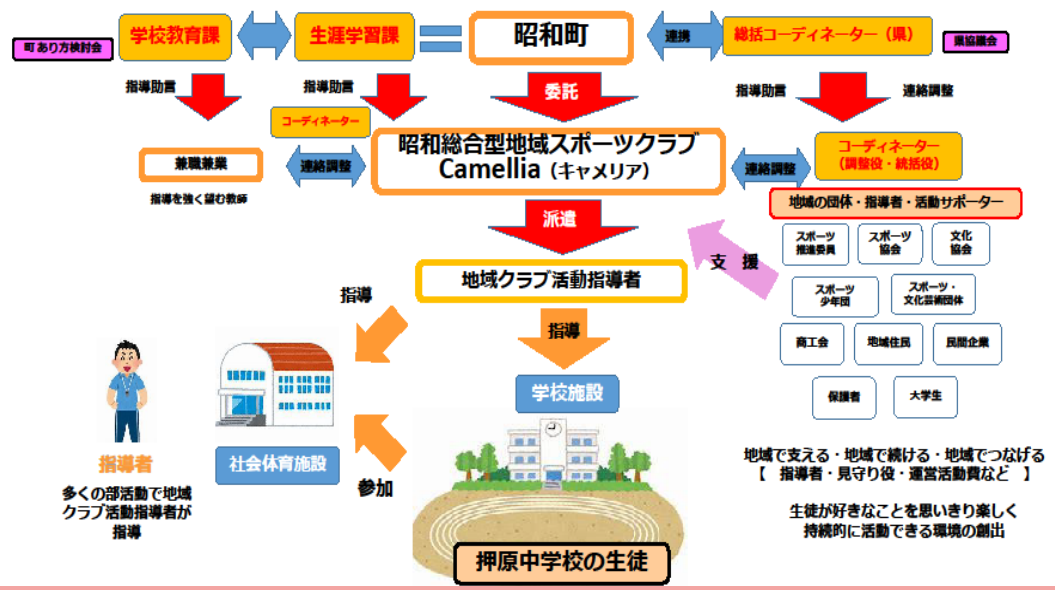
2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

昭和町　地域クラブ活動への移行に向けたイメージ図



◉教育委員会（学校教育課）（生涯学習課）

指針の策定、各種規約、規程等の整備

地域部活動制度あり方検討会の事務局

（一社）昭和総合型地域スポーツクラブキャメリアとの連絡調整、

計画立案、事業実施、事業検証、同クラブ支援

地域移行コーディネーターとの連絡調整、事業実施、事業検証、支援

学校、行政、実施主体、関係団体との連絡調整

児童・生徒等、保護者、教員等への意向調査の実施、情報発信

年間の事業スケジュール

（運動部　一部文化部共通事項あり）

令和６年４月　地域クラブ活動「ダンス部」創設

（令和５年度～　体験会を中心として活動）

令和６年４月　中学校・スポーツ協会・文化協会・PTAなど各種団体の総会等に参加し、取組状況の説明など周知活動

令和６年５～６月　実施主体の法人格取得（体制強化）

令和６年６月　令和６年度から着任された教諭（顧問）面談

令和６年８～９月　自然科学部（外部指導者導入開始）

令和６年11月　女子バスケ部（外部指導者導入開始）

令和６年11月　女子卓球部（外部指導者導入開始）

令和６年12月　地域クラブ活動「なぎなた部」実証開始

令和６年12月　自然科学部　ホタル育成プロジェクト開始（中学校・小学校・地域連携活動開始）

令和６年12月　美術部　顧問・外部指導者打合せ（現在の方針と今後の方針の確認）

令和６年12月　外部指導者・顧問意見交換会

令和７年１月 男子バレーボール部（外部指導者導入開始）

令和７年１月　美術部　（外部指導者導入開始）

令和７年２月　第1回「地域で考える！部活動の地域展開と昭和町の新たな形づくり」ワークショップ開催

令和７年２月　第4回部活動地域移行あり方検討会開催

（通年）なぎなた・ダンス体験会（次世代向け）開催

３種目４部（男女ソフトテニス・男子卓球・陸上）部はR5年度から導入開始

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	昭和町立押原中学校	実施した地域クラブ総数	8 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6 クラブ（6 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	24人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ダンス部	総合型地域スポーツクラブ	HIP HOP ブレイキング	平日 週 2 回 休日 月2回	16:30 ～ 18：00	中学 1年生 7名 2年生 3名 小学生 2年生 3名 4年生 3名 6年生 5名	R6.4～	昭和町総合体育館	3 人	2 人 （内、兼務 2 人）	月会費 0 円／ 年会費 0 円（など）	町イベント 学園祭での発表
なぎなた部（地域クラブ活動準備中）	総合型地域スポーツクラブ	なぎなた	月 1 回	9:30～ 11:00	小学生 3年生 3名 5年生 5名 6年生 1名 ※中学生随時参加	R6.12～	昭和町総合体育館	1 人	2 人 （内、兼務 2 人）	月会費 0 円／ 年会費 0 円（など）	なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
女子バスケットボール部	学校・実施主体	バスケットボール	平日 週２回 休日 月３回	16:30～18：00 8:30～11：30	1年生 9名 2年生 4名	R6.11～	昭和町地域交流センター	２人	２人（内、兼務２人）	月会費 0 円／年会費 0 円（など）	中体連等
男子卓球部	学校・実施主体	卓球	休日 月３回	8:30～11：30	1年生 10名 2年生 11名	R6.1~	卓球場・昭和町総合体育館	４人	２人（内、兼務２人）	月会費 0 円／年会費 0 円（など）	中体連等
女子卓球部	学校・実施主体	卓球	休日 月１回	8:30～11：30	1年生 9名 2年生 15名	R6.11～	卓球場・昭和町総合体育館	３人	２人（内、兼務２人）	月会費 0 円／年会費 0 円（など）	中体連等
陸上部	学校・実施主体	陸上	平日 月３回 休日 月３回	16:30～18：00 8:30～11：30	1年生 27名 2年生 23名	R6.1~	学校グラウンド	３人	２人（内、兼務２人）	月会費 0 円／年会費 0 円（など）	中体連等
男子ソフトテニス	学校・実施主体	ソフトテニス	平日 月１回 休日 月３回	16:30～18：00 8:30～11：30	1年生 12名 2年生 12名	R6.1~	学校テニス場	４人	４人（内、兼務２人）	月会費 0 円／年会費 0 円（など）	中体連等
女子ソフトテニス	学校・実施主体	ソフトテニス	休日 月２回	16:30～18：00 8:30～11：30	1年生 19名 2年生 10名	R6.1~	学校テニス場	４人	４人（内、兼務２人）	月会費 0 円／年会費 0 円（など）	中体連等

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 町内県立高校との連携検証中（ダンス部）
- 町内県立高校との連携検証中（なぎなた部）

2.実証内容と成果

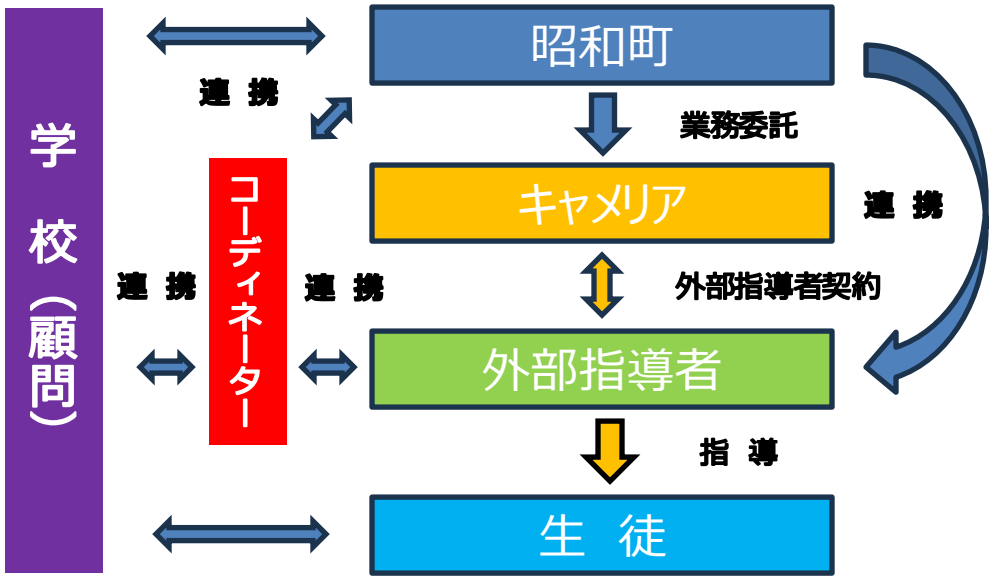
スポーツ庁

主な取組例

●ダンス部　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ダンス（HIP　HOP・ブレイキング）
運営団体名	（一社）昭和総合型地域スポーツクラブ・キャメリア
期間と日数	R6.4～ 平日週2回 休日月1～2回
指導者の主な属性	HIP　HOPおよびブレイキング　指導者（学生・一般社会人）
活動場所	昭和町総合体育館
主な移動手段	なし
１人あたりの参加会費等（年額）	0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●外部指導者

役割：学校・キャメリア・生徒と連携。活動メニューの考案・活動日計画・指導。

●昭和町及びコーディネーター

役割：実施主体・コーディネーター・外部指導者及び学校と連携
（課題の洗い出し及び解決、各方面支援）

●実施主体（キャメリア）

役割：行政・外部指導者及び学校と連携、運営及び運営上庶務

2.実証内容と成果

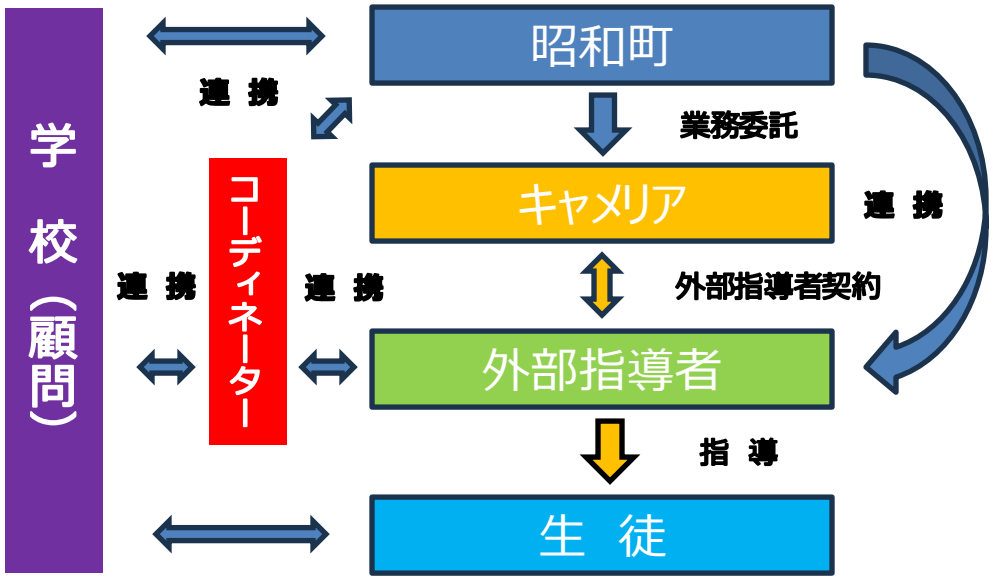
スポーツ庁

主な取組例

●なぎなた部　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	なぎなた
運営団体名	（一社）昭和総合型地域スポーツクラブ・キャメリア
期間と日数	R6.12～ 休日月1～2回
指導者の主な属性	なぎなた　指導者有資格者・教員免許保持者
活動場所	昭和町総合体育館
主な移動手段	なし
１人あたりの参加会費等（年額）	0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●外部指導者

役割：学校・キャメリア・生徒と連携。活動メニューの考案・活動日計画・指導。

●昭和町及びコーディネーター

役割：実施主体・コーディネーター・外部指導者及び学校と連携
（課題の洗い出し及び解決、各方面支援）

●実施主体（キャメリア）

役割：行政・外部指導者及び学校と連携、運営及び運営上庶務

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

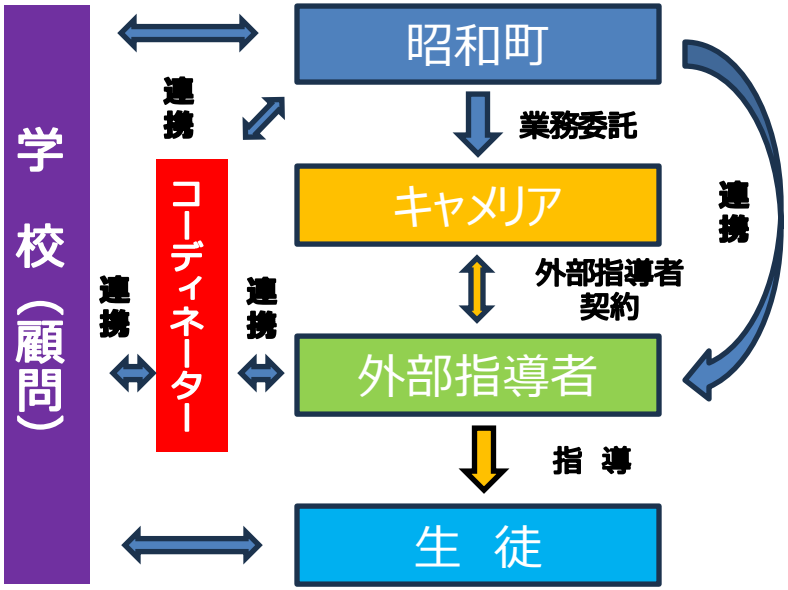
●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○学校・行政・地域・外部指導者との連絡調整を担う町地域移行コーディネーターを１名配置した（令和5年度任命。６年度も継続）
○実施主体として（一社）昭和総合型地域スポーツクラブ・キャメリアと地域移行業務委託契約締結（令和5年度締結。６年度も継続）
○実施主体の体制強化として法人格の取得
○町部活動地域移行あり方検討会を開催し、意見交換を行った

取組の成果

○設立16年目を迎え、約20を超える多種目に及ぶプログラムを子どもからシニア世代まで提供し、学校体育指導や支援などの場面での指導実績もある町内総合型地域スポーツクラブ・キャメリアを実施主体として選定した。
○同クラブマネジャーを地域移行コーディネーターに任命し、主体的、能動的に連絡調整を実施。
○地域学校協働活動推進員やPTA等との効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行うことができた。
○令和4年にあり方検討会発足し、今年度も町における地域展開について協議、学習、意見交流を行った。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【昭和町地域移行コーディネーター】
・学校・生徒・行政・地域・外部指導者と年間100日近く関わりながら、活動現場の巡回や課題等のヒアリング・助言等を実施し、また、各種会議などへ出席し、機運醸成やコミュニケーションを図ることで本改革の事業周知及び活動を行った。

今後の課題と対応方針

・実証事業が進むにつれての事業量の増加に伴う、コーディネータのサポート体制の充実
・実施主体の運営を主体的・持続的に行うためのスタッフ確保・育成
・実施主体の体制拡充（自立的収支構造の構築・各種事務・業務への対応力の強化）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・地域で主体的に持続的に活動を行える人材であること、当町の理念を共有し、実践できる人材であることを柱とし、対象者とは理念の共有を行いながら、実践を行った。

活動に従事いただいた指導者

24名
※他２団体

年齢構成

10代　2名
20代　11名
30代　9名
40代　0名
50代　2名

登録者属性

・現在取り組んでいる活動内容を学校・生徒から聞き取りをし、人選を行った。

種目

・女子バスケットボール
・男子卓球
・女子卓球
・陸上
・男子ソフトテニス
・女子ソフトテニス
・男子バレーボール
・ダンス

資格有無

・教職免許保持者

取組の成果

・運営団体、実施主体、学校（顧問）と現状の活動方針と町の目指す理念の共有を行うことができた。
・外部指導者に過度な負担とならないように顧問と外部指導者と理念の共有のみならず、現場での課題の共有を行うことで、スムースな移行を進めることができた



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

第１回「地域で考える！部活動の地域展開と昭和町の新たな形づくり」
令和７年２月８日（土）AM９：００～PM１２：４５～

取組事項

各種団体の総会や会議のなどを捉え、説明を実施しているところではあるが、生徒の考える、求める活動とは何か、地域で支える、形作りができることは何か，それぞれの立場で考え、違う立場、子ども、大人それぞれの意見をお互いが同じ場所で聞き、共有することを目的に各属性ごとグループに分かれ、発表をし、意見交換を行うワークショップを開催した。





参加者・対象者

・押原中学校生徒・同校及び町内小学校6年生保護者・町内小中学校教諭・町内スポーツ・文化団体・町商工会関係者・外部指導者・町行政職員・県内地域展開行政担当者等

取組の成果

・生徒（子ども）の意見や考え方を聞けた。
・様々な属性同士、意見交換が行えた。
・同属性内であっても年代、職業など立場が違う方同士での意見交換も行えた。
・ワークショップという形を取ることで、運営主体・実施主体が中心となる意見交換の場から地域の皆さんでの意見交換の場を通じて内容周知と課題の共有が行えた。

今後の課題と対応方針

・保護者・地域の方の参加に対して参加しやすい環境づくりなど検討をし、さらに皆で管上げる機会の創出を行う
・時間の制約もあるが、テーマを絞り、深堀を行いながら、課題の洗い出し、解決に向けて検討実証を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組の成果

運動部部員（対象：地域クラブ導入部部員無作為抽出）

部員を対象としたアンケートの結果、右の回答を得た。地域展開導入以前から活動は活発である部が多い。部員数も多く、１部員が指導を受ける時間に制限があった部分もあり、専門的な指導を受ける機会が増加したことにより、より楽しさを感じる、技術向上などを感じる生徒が行っている活動をより好きに思いきり活動できる環境に近づけているのではないかと感じた。平日にも外部指導者の関与が可能になった活動もあり成果である。取り組む種目は異なるが、町の理念を広く生徒に感じてもらえてきており、仲間との交流を通じながら、新しい事に取り組む気持ちが高まっていると評価している。

今後の課題と対応方針

・町の地域展開の取組について、生徒たちにもさらに広く周知を行いたい
・地域展開が持続的に地域で担える活動となるため、現在指導を受けている生徒に活動を通じて指導者として将来的に地域に戻ってきてもらえるようにより楽しく活動できる環境整備に努める。
・活動の披露の場の創出・提供（地域クラブ活動の目標設定）
・クラブ内での生徒それぞれが抱いている活動に対しての考え方を広く支える環境・体制づくり

アンケート結果

・地域移行に対して町の取組方針について・・・
知っている　76%　知らない24%

・外部指導者の指導を受けて・・・（複数回答可）
より楽しさを感じた　20%
技能向上を感じる　20%
新しい考え方を学んだ　28%
好奇心が湧いた（やる気がでた）　10%

・今後のクラブ活動を通じて得たいことは？（複数回答可）
自信　13%
技能向上　19%
新しくチャレンジすることの発見　10%
楽しみたい　14%
仲間との交流　21%

・今後やってみたい活動は？（複数回答可）
サッカー（女子）・茶道・レクリエーション活動・スキー・手芸・折り紙・写真・料理・金融の勉強など

A＝97

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

教員（対象：運動部顧問副顧問全員）

教員を対象としたアンケートの結果、右の回答を得た。部活動に携わる教員のみであるが、周知率100%を達成した。昨年度は到達していなかったので、早期に取り組んできた成果であると評価する。部活動に関わる時間も約25%の教員において削減がみられた。地域展開を通じて部活動における指導への負担感や拘束時間の削減が見られた。また、よりきめ細やかに生徒と接する時間の創出にもつながっている。地域展開を進める上での課題についても教員目線での課題が挙がっている。大会の在り方など自治体レベルで解消が困難な事象も現場レベルでは挙げられている。また、地域展開を通じて、・部活動環境について親身に考えていただき感謝します。外部指導者と一緒に活動することにより部活動の方針や部の状況をいち早く理解していただけるなど現場からも評価いただいた。

今後の課題と対応方針

・町の地域展開の取組について、教員の皆様からも情報発信していただき、生徒・保護者・地域にさらに広く周知を行いたい

・完全地域展開に向けて、学校現場での課題の洗い出しと課題解決に向けて、それぞれが主体的に取り組む

アンケート結果

・地域移行に対して町の取組方針について・・・

知っている（生徒・保護者・外部指導者に説明できる）　70%
知っている（説明は難しいが、知っている）　30%
知らない　0%

・地域展開に伴い、部活動に関わる時間が・・・（複数回答可）

年度で10時間以上削減した　9%
年度で10時間未満削減した　17%
変わらない　74%

・地域展開に伴う変化（複数回答）（多かった意見抜粋）

技術指導を行う必要がなく負担が軽減された
部活動以外の学校業務が行えるようになった
技術指導以外で生徒と接する時間が生まれた
家庭・プライベートの時間を確保できるようになった　等

・地域展開を進める上での課題（複数回答）

外部指導者の確保
顧問が負っている業務（責任）を外部指導者も負担を感じることがより少なくなるように移行するための制度の確立と明確化
大会の在り方の改革（運営方法も含めて）
単独自治体ではなく、近隣自治体との連携（合同部の設立）

A＝23（回答率100%）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・各種団体の会議や総会などで受益者負担について説明
・町商工会へ町の取組を説明
・第１回「地域で考える！部活動の地域展開と昭和町の新たな形づくり」ワークショップ開催時に町商工会加入者を招き、町の取組の周知と意見交換
・地域クラブ活動「ダンス部」を通じて受益者負担について検証に着手

取組の成果

・取組の浸透から地域発信にて提案をいただくよう土壌が醸成された。
・自立的収支構造の構築に向け、マーケティング活動を開始。
・スポンサード規約の作成（町内税理士や司法書士などとの連携）
・地域クラブ活動において、次世代加入対象者からの費用負担開始
・年間5,000円/人（来年度からの受益者負担への検証）
・地域で支える、生徒（家庭）で支える構造のイメージ共有が図れた



（イメージ）

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・関係者との連絡・調整・事務体制の整理、強化

地域展開が進んでいくほど、簡素化され、機動的な体制でないとそれぞれに負担感が生じる場面が増加している。運営主体・実施主体の事務量の負担軽減策としてそれぞれの体制強化、整備がそれぞれ必要である。また、展開が進めば進むほど、それぞれの情報共有や対話の機会がないと円滑に進まないと感じるので、さらに丁寧に実施していくこと、現場の課題感と向き合うことが肝要である。

・実施主体の基盤強化

学校現場での活動が形作られている制度であるが、地域展開することは、現在の体制の中で地域や学校現場の中での活動に実績がある組織であっても難しい部分がある。生徒や保護者、地域、学校、行政にさらに信頼される組織づくりを目指すべく行政などが支援を行い、早期により自立した形となるような運営基盤の確保を目指す。

・外部指導者の確保・育成

指導者を求めるだけではなく、指導者を育成していく事も地域で担っていく事を考える上では鍵と考え、現在の顧問や外部指導経験者と一緒に活動することによって指導者の育成も図り、指導力の強化、指導者の確保とした

・活動（運営）財源確保

指導者のみならず運営においても経費が生じるため財源確保が必要となる。受益者負担も検討をしなければならないが、全体的な負担軽減、特に経済的な課題を抱えている層への支援を国や県などの財政支援も活用し、自治体としても予算措置などを通じて検討する。併せて、地域に支えてもらうためのマーケティング活動も開始できた。

●成果の評価

・あり方検討会においても議題になっていた、指導者側の契約・指導者の受け入れ態勢整備及び被指導者側、また地域への信頼性向上のに資するためにも、**実施主体の体制強化**として**法人格の取得**に至った。

・現在の活動時の課題を**現場に赴き、聞き取り**を行い、**課題の洗い出しと解消を目指しながら、生徒の現状とニーズに合わせた指導者とのマッチング**に注力した。**教員の負担軽減と地域展開に対する意識が高まった。**

・**地域全体が指導者と捉え**課題解決を世代を超えて行えるよう、**実施主体中心に行政、地域団体、小学校などと課題共有し連携・展開し、活動する基礎作り**ができた。

・**生徒を中心に**学校、外部指導者、保護者、町内各種団体、行政職員など**一堂に会し、グループワークの形式**でそれぞれの立場で意見を出し合い、意見交換する機会を設け、どのようなことができるか、**前向きな意見交換**ができる場を設けることができた。

●今後に向けて

総括にも記載したが、以下のポイントについて大事にしながら、丁寧に進めていく必要があると感じ、課題として地域全体で共有し、課題解決していきたい。

・運営主体、実施主体の体制強化　・町の理念を共有し、生徒のニーズに応えることができる指導者の確保、育成　・安定した指導者の確保　・学校現場とのさらなる連携（学校予定及び活動場所などの共有）　・自立的収支構造の構築

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【ダンス部　練習風景】



【ダンス部　若麦祭（学園祭）出演】



【ダンス部　昭和町ふれあい祭り出演】



【ダンス部　ショッピングセンターにて出演】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【なぎなた　指導サポートの高校生と記念撮影】



【なぎなた　なぎなた練習風景】



【なぎなた　演技の練習】



【なぎなた　面の練習】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）









【第１回「地域で考える！部活動の地域展開と昭和町の新たな形づくり】 ワークショップの様子

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

広　報　資　料



【ダンス部　活動啓発チラシ】



【なぎなた部　活動啓発チラシ】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
地域移行制度検討開始（ありかた検討会設置）	負担・課題感の洗い出し及び解決策の検討と共有	国・県制度や町の取組方針の周知	移行できる部分から試行的に実証開始（地域で担える形の検証）	地域クラブ活動へ（移行完了）
●検討会を設置 ●運営主体として教育委員会（学校教育課・生涯学習課の協働）、実施主体として昭和総合型地域SCキャメリアを決定。 ●昭和町としての目指すべき方向性の承認と共有 ●関係団体において検証研究、情報収集開始。 ●来年度からの地域移行コーディネーター任用決定 ●昭和総合型地域スポーツクラブキャメリアと地域移行業務委託先として検討（検討会にて答申）	●町地域移行コーディネーター任命（R5年度～） ●顧問、生徒、外部指導者が負担感、不安感を感じずに携われる環境づくり ●部活動顧問面談を実施 ●学校に出向き、制度の説明と町としての目指すべき方向性の説明と共有 ●町スポーツ協会や町文化協会、スポーツ少年団会議などに出向き、制度説明や町の方針や取り組み状況について情報共有した。スポーツ推進委員協議会は、県保健体育課担当者を招き研修会を実施した。	●運動部　国実証事業を活用しての地域展開への取組開始（R5年度～） ●実施主体の体制強化のため、法人格取得 ●外部指導者のリサーチ及びリクルート及びマッチングの開始（R5年度～） ●部活動の場やスポーツ少年団の活動の場に出向き、保護者などと対話する中で情報発信を行った（R5年度～） ●部活動の場やスポーツ少年団の活動の場に出向き、保護者などと対話する中で情報発信を行った（R5年度～） ●第１回「地域で考える！部活動の地域展開と昭和町の新たな形づくり」ワークショップ開催 ●実施主体が完全主体的に運営・指導を担う「地域クラブ活動」の設立の検討実証開始（R5年度～検証開始、R6年度～高校等との連携の本格化 ●町商工会を中心に町の取組・理念の周知を行いながら、地域で支えることができる形の模索	●生徒が取り組んでいる活動を好きなように、思い切り活動できる体制を地域で担える形の完成へ ●実施主体が持続的により効率的に自立的に活動できる体制の確立へ

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降

【昭和町取組方針　理念】
☆生徒が取り組んでいる活動を好きなように、思いきり活動できる体制を地域で担える形を目指す
☆移行可能な部活動から試行的に移行を目指す。
☆学校現場で負担や課題感を抱えている部分を移行を行いながら、解決を目指す。
☆学校、行政、総合型地域SC「キャメリア」が主体的、能動的に協働し、取り組む。

関係者との情報共有・対話

事業計画　→　事業実施　→　事業検証　→　課題解決・改善　のサイクル化

部活動地域移行あり方検討会

生徒 保護者 地域 関係団体への制度の周知・町の取組方針の共有

運営主体・実施主体の体制整備・強化

外部指導者のマッチング・移行（休日及び平日）（質・量・コミュニケーションの確保）

さらなる地域クラブ活動の創設検討・創設

活動運営財源確保の検討